

講演②ブリティッシュコロンビア州のバイオマス～持続可能性の評価

レイチェル・ホルト氏

- ・ブリティッシュコロンビア（BC）州では、有効な原生林・老齢林保護が実施されていない
- ・BC 州には、製材残さや林地残材などの廃棄物がペレットの原料であることを保証する追跡システムが無く、そのような廃棄物の利用を促すインセンティブが無い
- ・その結果、原生林の丸太がペレットになっている。回収・搬出にかかるコストにより、現地ペレット製造会社の皆伐地では伐採後の林地残材は利用されず、その場で燃やされている

BC 州の半分は森林地帯であり、その半分以上は原生林。
BC 州では年間平均 20 万 ha（東京都の面積に匹敵）の森林を伐採しており、ほぼすべて皆伐により行われている（写真①）。「原生林と老齢林（沿岸部で樹齢 250 年以上、内陸部で 140 年以上）を伐採し、すべてを管理された人工林に転換する」という BC 州の政策は市民の抗議行動を引き起こしている。



写真①衛星写真

あらゆる面で失敗してきた BC 州の森林管理

図①

BC 州には「**木材供給上限（Timber supply cap）**」という規制がある。これは、「森林や生物多様性、水を保護する際に、州が供給する木材の 5%以上に影響を及ぼしてはならない」、つまり、木材生産が可能な森林の 5%しか保護できないというもの。これにより、森林管理に関するあらゆる規制の実効性が非常に低くなっている。

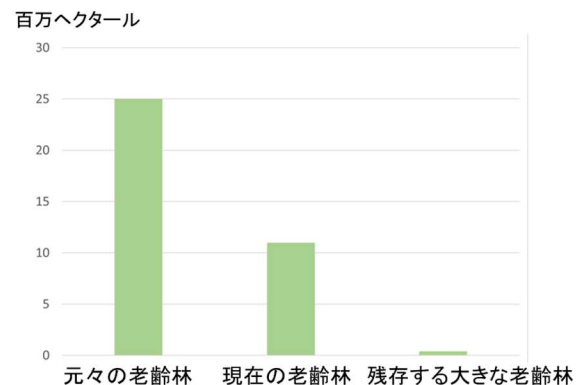
BC 州の保護区は、いずれも森林がほとんどない地域や、木材生産性が低く木材収穫の予定がない森林ばかりで、**最も木材生産性の高い森林の保護ができていない**。

BC 州にはさまざまなタイプの森林があるが、**大規模な皆伐と、落葉樹種を駆除する除草剤によって、すべて画一的に管理**されてきた。

2020 年に設置された、州の「原生林戦略レビューパネル」は、森林管理システム全体の評価を行い、14 の重要な提言を含む報告書を発表。州の森林管理のやり方が、経済、雇用、生物多様性、先住民族の文化的価値の維持など、あらゆる面で失敗してきたと指摘し、今後は生態系の健全性を維持するための森林管理へとパラダイムシフトする必要があると述べている。

BC 州に **100 年前もともとあった約 2,500 万 ha の老齢林は現在は 1,100 万 ha 強**となっており、**老齢林の中でも特に木材生産性の高い大きなものは既に 90%以上が伐採**され、数十万 ha しか残っていない（図①）。

図 BC州の老齢林の面積

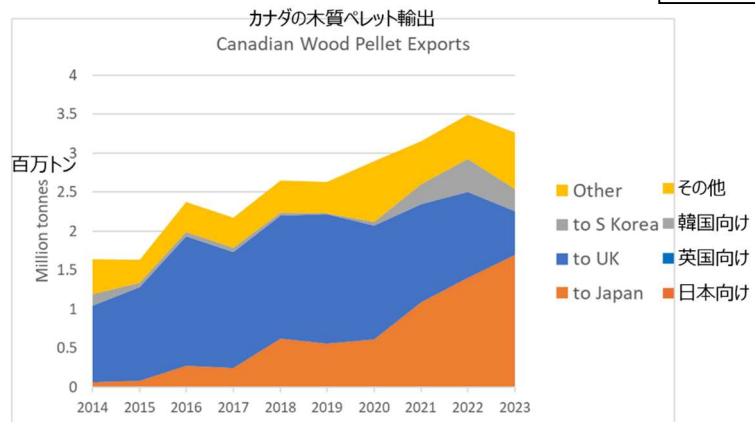


急成長した BC 州のペレット産業

図②

BC 州のペレット産業はここ 10 年で急成長し、大半は英国と日本に輸出されている（図②）。

現在 BC 州で作られるペレットの原料の約 80%は製材所で発生する残さ、残りの約 20%は丸太である。工場によっては最大 40%が丸太から作られている。しかし、原料の出所を公に報告する義務がなく、加工・流通過程を管理できていないため、正確な数字は把握できない。



なぜペレット生産に原生林の丸太が使われるのか？

ペレット工場に運ばれた丸太がどの伐採許可区で産出されているのか？現地 NGO・Conservation North の調査¹によると、**丸太の約 60%が老齢林のある伐採許可区**から来ていた。これらの伐採区には保護されるべき場所である「優先的伐採保留地」も含まれている。

BC 州には、「製材残さや林地残材などの廃棄物以外をペレット製造に使ってはならない」という規則や、そうした廃棄物の利用を促すインセンティブが存在しない。

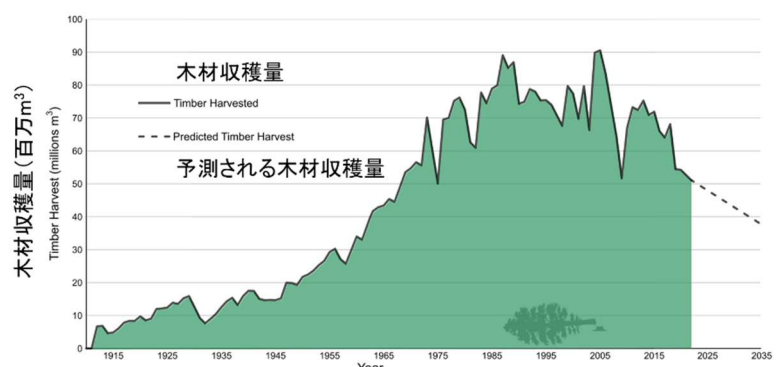
また、**BC 州の製材所数は激減している。製材残さの供給源は減少する**一方、ペレットの需要は増加しているため、BC 州の森林が一層伐採圧力にさらされることになる。

カナダ国内での最大のペレット生産者であるドラックス社の皆伐地では伐採後の林地残材は利用されず、その場で燃やされている。なぜなら、回収・搬出にはコストがかかるためだ。

「持続可能なペレット」の 3 つの条件

図③

・「持続可能な木材供給」の観点：BC 州では持続可能な管理がなされておらず、木材収穫量は過去 50 年間年間平均 7,000 万 m³前後だったのが、近年大幅に減少し、昨年は 5,000 万 m³弱、今後 10 年間で 3,500 万 m³程度になる予想されている（図③）。



¹ Conservation North ウェブサイト「残存する森林の伐採：ドラックス社のペレット工場はブリティッシュコロンビア州の最も希少な老齢林から丸太を調達している」

<https://conservationnorth.org/logging-what-left-japanese/>

・「炭素」の観点：ペレット生産がさらなる森林伐採を引き起こす場合は「炭素中立」ではない。気候にとって有益な森林の炭素貯留・隔離機能が損なわれるからである。ペレットを日本まで運ぶ過程でも膨大なエネルギーが使われ、発電利用だけに燃やす場合のエネルギー効率率は 20～40%と、非常に効率が悪い。

・「環境の持続可能性」の観点：「木材供給上限」により、有効な環境保護の実施が妨げられてきた。

写真) Conservation North のレポートより



ドラックス社のヒューストン木質ペレット工場の丸太置き場



スミザーズペレット工場の近くの伐採現場に廃棄されているグレード 4 の丸太

持続可能なバイオマスプログラム（SBP）の問題点

木質バイオマスの持続可能性を保証するために使われる認証制度「持続可能なバイオマスプログラム（SBP）」は、上記 3 つの観点のいずれも詳しく評価していない。

SBP は第一に「（燃料生産地で）森林認証を取得していれば、持続可能である」と想定しているが、**BC 州の認証林のほとんどを占める「持続可能な林業イニシアチブ（SFI）認証」は、林業界が従来のやり方を継続するために始めた制度であり、持続可能性評価として効果が無い。**

SBP では、森林認証を取得していない場合は、地域リスク評価が行われる。**BC 州の地域リスク評価では、「老齢林が保護されていない」「生態系が効果的に管理されていない」などといったリスクが指摘されているが、SBP では、リスクが特定されても「そこからペレットを調達してはいけない」とは定めていない。**

今後必要な原生林からのペレット生産の中止と補助金の廃止

- ・原生林と老齢林の保護強化が求められる。原生林からペレットを作ってはいけない
- ・製材残さや林地残材などの廃棄物だけがペレットの原料であることを保証する追跡システムが必要である
- ・発電目的のペレット利用は非効率なのでやめる必要がある

2023 年に日本で開催された G7 サミットでは、森林への圧力となる補助金を特定し、生物多様性の保全と持続可能な利用のために、2025 年までにそれらの補助金を廃止すると約束されている。バイオマスへの補助金制度が、森林伐採の圧力になっていることを考えると、廃止されなければならない。